



# Japan SDGs Innovation Challenge for UNDP Accelerator Labsの概要、および インド・フィリピン・ベトナムの課題と 日本企業に期待される技術について



2020年10月

国連開発計画 (UNDP)

一般社団法人Japan Innovation Network (JIN)

# Japan SDGs Innovation Challenge for UNDP Accelerator Labs概要

**【背景】** SDGsの採択から5年が経ち、多くの日本企業にとってSDGはビジネスの機会であると言われるものの、そのやり方は暗中模索であるのが実態。その中で、日本企業の技術・ノウハウ・ネットワークを活用した課題解決のビジネスモデル構築と検証活動を、イノベーション活動の軸で日本企業とUNDPが共同で行っていく画期的な試み。

**【主催者】** UNDP Accelerator Labs（以下A-Labs）

**【運営協力】** SHIP（SDGs Holistic Innovation Platform）※ UNDPとJINの共同運営プラットフォーム

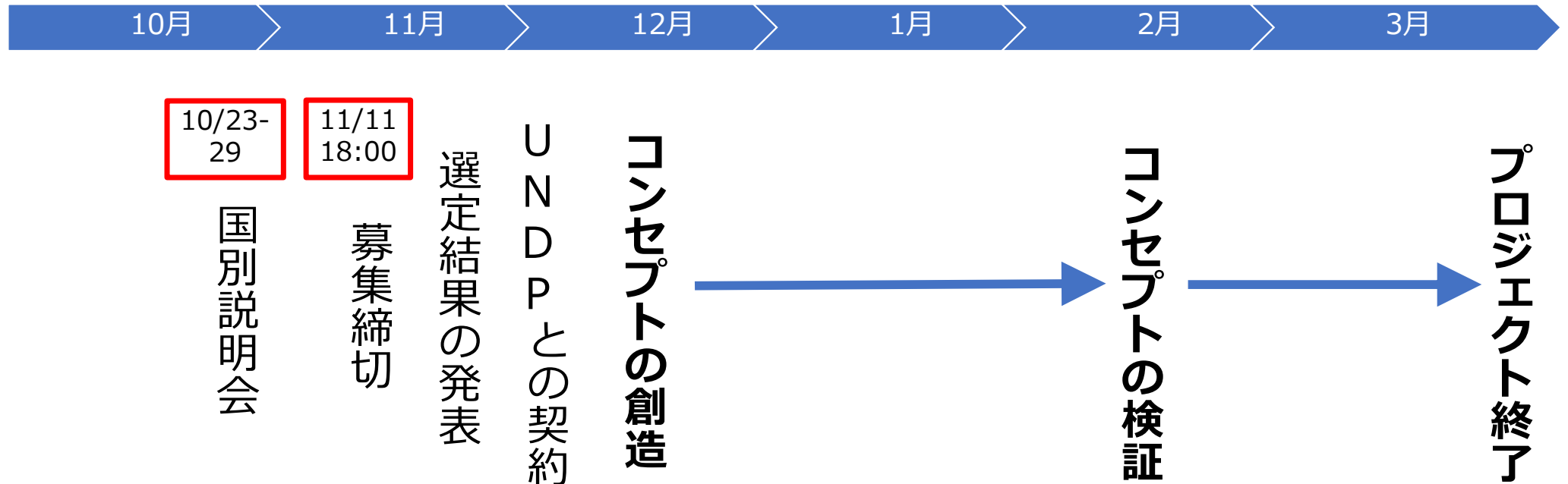
**【資金拠出】** 内閣府の拠出金を原資に実施 ※内閣府は資金拠出のみを行い、事業運営には関わらない

**【立上げプロセス】** A-Labsは、全世界60拠点に当事業への参加を呼びかけ、19拠点から具体的なプロポーザルを受領し、UNDP内の厳正なる選考の結果、5拠点（後述）を当事業の対象国として選定。

**【活動内容】** A-Labsが特定した国別の課題について、日本企業が事業を通じて解決を追求するために、UNDPと日本企業が共同で取り組む。2019年に発行されたISO 56002（イノベーション・マネジメントシステム）に定義されているイノベーション活動の考え方をはじめとする、イノベーションに関わる最新の国際的な知見をJapan Innovation Network（JIN）が提供することで活動を加速支援する。

**【日本企業の役割】** UNDPと直接契約し、プロジェクトを実施。

# 今後のスケジュールとプロセス（予定）



※コンセプトとは、ビジネスモデルなどの価値提供モデルを指します。

※現地事務所との直接の会話を行いますので、日本時間では業務時間外になることもあります。

# インド [SDG13:気候変動に具体的な対策を]

## 【課題】 小規模スパイス農家の貧困とスパイスバリューチェーンの不透明性

- 総人口の50%以上を占める1億3,600万世帯が農業に従事し、その8割が2ヘクタール未満の小規模農家で、うち5分の1以上が貧困層
- インドは世界最大のスパイスの生産・消費国で、年間輸出額は28億米ドル。
- スパイス産業バリューチェーンの透明化による収入の公正な分配が必要

## 【解決の方向性】 ブロックチェーンを活用したスパイスの生産・流通管理

- アンドラ・プラデーシュ州など1-2のパイロット州におけるブロックチェーンを活用した生産・流通管理の実現とバリューチェーン全体の透明性向上
- 不純物の混入の減少、スパイスの輸出拡大、価格変動や天候変動などに対する脆弱性への対応強化もめざす

## 【A-Labsの活動】

- スパイス産業バリューチェーンの構造分析
- 他産業（コーヒー、はちみつ、チョコレート）のブロックチェーン事例調査
- 4州3,000農家を対象とした生産量と品質管理手法の検証

## 【主な現地関係者】

- Ministry of Commerce and Industry、Spice Board of India、各州政府、Farmers Organizations、NITI Aayog (Public think tank)

## 【日本企業への期待】

- eSpice Bazaar（既存）へのブロックチェーン技術の実装・検証



アンドラ・プラデーシュ州



インドのスパイス農園

# フィリピン [SDG11:住み続けられるまちづくりを SDG12:つくる責任 つかう責任]

## 【課題】 マニラ湾周辺のプラスチックごみによる海洋汚染

- マニラ首都圏に流れるパシッグ川流域における廃棄物による衛生悪化や、棄物を換金して生計を立てるインフォーマル経済の出現などの課題が顕在化。
- 海洋ごみの年間排出量はアジア第3位で、特にプラスチックごみの排出量は年間約270万トン。うち188トンが誤った方法で処分

## 【解決の方向性】

- **海洋汚染の状況把握**：汚染状況のモニタリング、データ化及び見える化
- **廃棄物管理能力の向上、消費者のリサイクル意識の向上**：将来的なサーキュラーエコノミーの促進、プラスチック代替包装材料の導入

## 【A-Labsの活動】

- 河川に流入する廃棄物の基礎調査、経路調査、プラスチック代替包装材料の導入検討、廃棄物分別やリサイクル能力強化など対策に必要な項目の洗い出し

## 【主な現地関係者】

Department of Environment & Natural Resources (DENR)  
Pasig City & Marikina City等

## 【日本企業への期待】

- Pasig川の汚染センサー技術の導入とデータ収集、および地元自治体と連携したデータを活用した管理体制の検討
- プラスチック代替包装材料の提案と導入テスト



マニラ湾とパシッグ川所在地



パシッグ川のゴミ汚染

# ベトナム [SDG11:住み続けられるまちづくりを]

## 【課題】プラスチックをはじめとした廃棄物処理技術の欠如

- 都市部の廃棄物は増加傾向（2020年：3,500万t→2025年：5,200万tの予測）にあるが、うち70%は埋立処分、残る30%は焼却または不法投棄
- 収集率は都市部では85%以上だが、農村部では40%～45%にとどまる
- 汚染物質の漏洩や、管理不行届きによる環境・健康上の問題

## 【解決の方向性】ダナン市における廃棄物処理システムのデザインと導入

- 廃棄物処理のインフラと慣行、環境保護基準や立法等の枠組み、人材・技術力の欠如の克服
- 廃棄物処理を行う現地の中小企業等に対する、環境に考慮したビジネスを行うノウハウの提供

## 【A-Labsの活動】

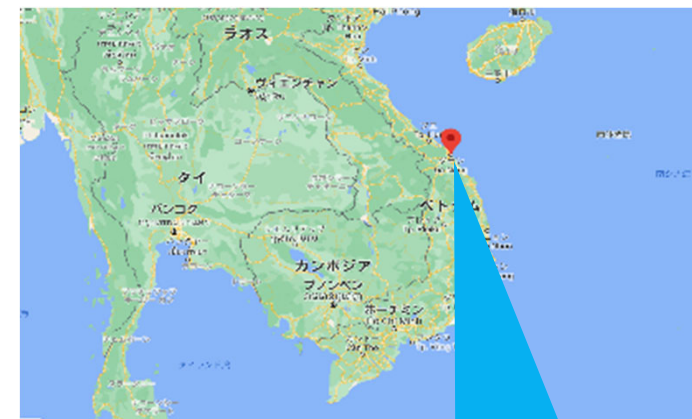
- 廃棄物処理に関するソリューションマップの作成、利害関係者に対するエスノグラフィー調査、プラスチックごみに関する基礎調査の実施、関係者向けワークショップ開催

## 【主な現地関係者】

- Department of Natural Resources and Environment、ダナン市、Danang Innovation Hub、現地スタートアップ企業

## 【日本企業への期待】

- プラスチック代替包装材料の提案、衛星などによる廃棄物の測定技術の提案、E-waste（電気電子機器廃棄物）管理システムの提案



ダナン市



ダナン市のプラスチックゴミの山